

定期検診を必ず受けよう



病気の予防は、毎日の生活で健康を守る「一次予防」と定期的な検診で身体の異常を早期発見する「二次予防」が二本柱となっています。

自分では「健康だ」と思っているにもかかわらず病気がじわじわと進行している場合があります。特にがん、心臓病、脳卒中をはじめとする生活習慣病は、初期の症状がほとんどないために気付いた時にはもう手遅れ・・・ということが少なくありません。「病気が見つかったら怖い」なんて言っている人は誰ですか?どんな病気でも、手遅れになってから後悔するより、治療が可能な初期のうちに見つけた方がずっといいと思いませんか?

町では、30歳以上のかたを対象に基本健診・各種がん検診等を実施。15歳以上のかたを対象に結核レントゲン検診(学校や職域・病院等で実施予定のかたは除く)を実施しています。3月に対象のかたには平成15年度各種健康診断希望調査書を隣組長さんを通して配布しますの

で、必ず記入をお願いします。なお、中旬には、隣組長さんが回収に伺いますので、希望の有無にかかわらず必ず提出をお願いします。例年、未記入や未提出のかたがありますが、特に結核検診につきましては、結核予防法の規定により毎年受けなければなりませんので、未記入のかたには確認の意味もあり通知書を差し上げることとなりますので、ご注意ください。

また、平成12年度から実施している総合健診(骨密度検診・乳房レントゲン検診を除く)は、年の検診を同時に実施する(※)は、年々受診者が増えてきたため、女性の日を1日増やしましたので待ち時間の短縮がはかれます。30〜69歳までのかたが対象ですのでぜひ受けてください。

詳しい検診内容や時期・対象者・料金等については調査書に同封の添付文書を参考にしてください。

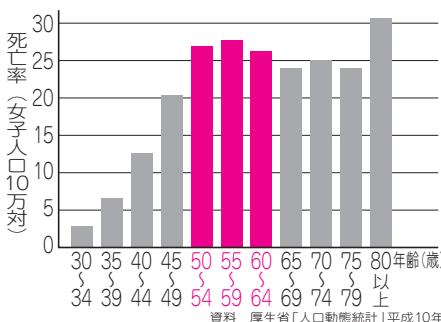
乳がん

早期のうちに見ることが大切!

近年、がんの中でも乳がんがほとんどの年齢層で増えていきます。特に死亡者のピークが次のグラフで明らかのように、円熟期の50歳代に高く、加えてそれ以降の年代でも高い水準になっていることが特徴です。ちなみに、平成10年の死亡者数は、38年前に比べてほぼ、5倍とい

う驚くべき状況にあります。乳がんといえは、かつては欧米の女性の罹患、死亡の多さが指摘されていましたが、我が国もそれに似たような傾向が著しくなってきたといえます。

■年齢階級別死亡率(乳がん)



乳がんはこれからどうなるの?

欧米並に乳がんが増加していることは、食生活の変化、すなわち食の欧米化によるといわれています。将来さらに乳がんは増加する傾向にあり、それに伴い乳がんによる死亡者もだんだん増えていくことが予想されます。

美しい乳房を残すために...

乳がんは、発見された時の病期、いわゆる進行度によって、その治療の成果が左右されてきます。早期発見ならば100%に近い生存率が期待できます。しかし、進行がんで発見されると生存率は、かなり下がってしまいます。また、早期発見ならば乳

房を残す温存療法というのが可能です。このことから乳がんは、できるだけ早期に見つけることが大切です。

乳房レントゲン...検査方法は?

乳房を左右からプラスチック板で挟んで、見やすいように平たくしたうえでレントゲン撮影を行います。撮影は左右各1回で、1人約5分かかります。ただし、次に該当するかたは、受けられませんので、ご注意ください。

- 妊娠中のかた
- 豊胸手術を受けたかた
- ペースメーカーを挿入しているかた

○乳房に異常な自覚症状があるかた(乳頭異常分泌・しこり等)は、町の検診を待たずに早めに検診を受けましょう。

対象者

50歳以上の女性(昭和28年度以前の偶数年度に生まれたかた)
※乳房レントゲンは、隔年実施となりますので、来年は、奇数年生まれのかたが対象になりますので、ご注意ください。

料金

乳腺・甲状腺検診(3000円)
乳房レントゲン(5000円)
町では、昨年に引き続き通常の乳腺・甲状腺検診(視触診)に合わせて実施しますので、各種健康診断希望調査書にお申し込みください。